

ゆめじゅく 2026(令和8)年

〒792-0821 新居浜市瀬戸町 7-30
TEL : 0897-41-5859 (Fax 兼用)
E-mail : seto@city.niihama.lg.jp

10月
October

★移動図書館青い鳥号
20日(火)
15時10分～15時50分

★ゆめじゅく編集委員会
5日(月) 13時30分～

★ゆめ喫茶
ゆめ喫茶は会場の都合により
お休みです。

10月の予定

★回転木馬
21日(水) 10時00分～10時30分

★人権のつどい日
11日(日) 10時00分～11時30分

月日曜日



地元からのお知らせ

◆10月16日(金)から始まる
新居浜太鼓祭りには、17日(土)
の山根統一寄せに瀬戸・寿子ど
も太鼓台が参加します。

子ども太鼓台の組み立ては、10月11日(日)(※雨天の場合は翌12日)瀬戸会館において行います。保護者の皆さま、自治会員の皆さま方のお手伝いをお願いいたします。

◆10月18日(日)は瀬戸会館にお神輿渡御、11時30分ごろ浦戸神社のお神輿が瀬戸会館の御旅所に到着の予定です。ご町内の皆さま方には、ご近所お誘いあわせの上、多数ご参拝くださいますようご案内申しあげます。なお、到着時刻には多少の前後がありますこと、ご了承ください。

地域の話題
新居浜太鼓祭り



人権のつどい日



9月の「人権のつどい日」は、東予地区人権・同和教育研究協議会(10月29日 今治市で開催)で実践報告をする2名の方に事前報告をしていただきました。

○ 東田保育園の篠原 史さんからは「一人を大切にすることから始まる集団づくりーしょうの世界に寄り添いながらー」と題した報告で、園が子供たちにとって共に育ち合う場となるよう、一人ひとりの個性を尊重し、多様な在り方を認め合える保育を大切にしていきたいとの話がありました。

○ スクノマの会事務局 小笠原 忠彦さんからは「その一人を取り残さない」と題しての報告、スクノマの会とは、「子どもの人権を守る」を主眼に、不登校や登校渋りなど学校生活に不安を抱いている新居浜市内の児童生徒、その保護者を支援する会との説明がありました。



であい展の開催日が決まりました！

1 開催日
令和8年11月9日(月)～11月14日(土)

2 場所
瀬戸会館1階A室B室

3 参加サークル
篆刻・ポーセラーツ・紙バンド・すみれ・
つまみ細工・マクラメ・油絵・己書道場・短歌・ほか

4 オープニング
11月9日(月) 10時～11時
2階大会議室 オカリナ・詩吟

5 ワークショップ
11月10日(火) 10時～16時





松本清張著『砂の器』とハンセン病



最近、時間ができたので書棚にある本を読み返しています。その一冊が、松本清張著『砂の器』です。『砂の器』は昭和 35 年6月から約1年にわたり読売新聞に連載された松本清張の代表作です。作品の概要は、以下の通りです。

物語は、身元不明の他殺体が見つかることから始まります。この遺体はその後、元巡査の三木謙一であることがわかります。彼を殺害したのは、将来を嘱望されている音楽家と賀英良でした。音楽界での成功ばかりでなく、大物政治家の愛娘との婚約も決まり、順風満帆な人生を送っていた和賀は、なぜ三木を殺害したのでしょうか。実は和賀英良の正体はハンセン病患者本浦千代吉の息子本浦秀夫でした。秀夫は幼少の頃、千代吉がハンセン病を発病したことが原因で、二人は故郷を追われてしまいました。父子は各地を放浪し、島根県の亀嵩で困窮していたところ、親切な巡査の三木によって保護されたのです。

本浦父子が放浪していた、昭和 13 年という時代はちょうど無らい県運動期に該当します。無らい県運動とは民族浄化を旗印に、各府県警察の主導で患者狩りが広く展開された時代です。ハンセン病は、一等国をめざす日本にとっては国家の恥であり、その存在自体が国辱とされ、誤った伝染力の認識と相まって、国家を挙げて隔離撲滅が奨められていました。ハンセン病は「業病」であり同時に凶悪な伝染病であるという、患者にとって極めて不都合な偏見が幾重にも重なり合っていました。

千代吉は三木の尽力により療養所に収容され、秀夫は三木に保護されますが、ある日、秀夫は三木に何も告げずに出奔してしまいます。単身大阪へと出た秀夫は、戦後の混乱（戸籍の消失）に紛れ身元を偽造し、和賀英良になりすましました。彼はその後、自身の努力と才能によって音楽家としての地位を手に入れたのです。

時が経ち、定年退職した三木謙一は、映画館で一枚の写真を目にします。そこには人気音楽家となった和賀が写っていました。三木は、その音楽家が本浦秀夫であることを見抜き、是非、一目会いたいと和賀英良のもとを訪ねるのです。和賀となった本浦秀夫は、三木の存在によって自身の秘密が明かされることを怖れました。彼は必死に築き上げてきた自身の虚像（砂の器）を守るために恩人である三木を殺害したのです。

約半世紀ぶりに読み返して大きな疑問が湧いてきました。この作品は、「本浦千代吉という人物が社会から忌み嫌われる事情を抱えているという」設定で、成立しています。秀夫はそうした父を隠すために、かつての恩人を手にかけてしまった訳ですから。

日本障害者リハビリテーション協会情報センターのホームページに掲載されている、荒井裕樹氏の論文「文学に見る障害者像 松本清張著『砂の器』とハンセン病」の中で、次のように考察されている。

松本清張は『砂の器』の作品内時間を発表時期と同じ昭和 35 年前後に設定しています。しかし昭和 35 年には、ハンセン病はすでに科学治療法が確立していたばかりか、患者たちは自分たちの権利獲得と境遇改善のための運動を広く展開していました。そんな昭和 35 年当時に、松本清張がなんらの疑問を抱くことなくハンセン病患者である本浦千代吉を「忌み嫌われる事情を抱えている存在」として描写しているのでしょうか？社会派と称された松本清張でも、ハンセン病問題に関しては見識が乏しかったとしか考えられません。

松本清張のねらいは、作品の山場を作るに相応しい「差別される事情」でした。その「差別される事情」に相応しいものとしてハンセン病を選んだのでしょうか。隠すべき＝「差別される事情」の象徴としてハンセン病に対する偏見・差別を、作品の中で舞台装置的に採用し、偏見・差別を積極的に否定していないのは残念です。但し、私がこのように作品を批判的に読むことができるのもハンセン病に対する正しい認識が深まった現在だから言えるのでしょう。



瀬戸会館使用状況

※9月18日現在の予定を記載しております。



月	火	水	木	金	土	日
			1 どんぐり 紙バンド レインボーA エストレージャ よさこい	2 健康体操 ピンポン フラダンス	3 マクラメ教室	4
5 楠木クラブ 己書道場 すみれ ピンポン べっぴんさん E Dance school fun	6 えんとつ山 詩吟 つまみ細工 フラダンス レインボーB 書神会 E Dance school	7 水美会 楠木クラブ みそひともじ倶楽部 泉川学習会 空手	8 3B体操 どんぐり 己書道場 オカリナ小組 紙バンド レインボーA エストレージャ よさこい	9 健康体操 ピンポン 彩の会 フラダンス	10 ポーセラーツ てんこく スクエアダンス	11 人権のつどい日
12 スポーツの日	13 えんとつ山 詩吟 フラダンス レインボーB E Dance school	14 水美会 楠木クラブ オカリナクラブ 空手	15 3B体操 レインボーA よさこい	16 健康体操 フラダンス	17	18
19 楠木クラブ ピンポン べっぴんさん E Dance school fun	20 えんとつ山 詩吟 つまみ細工 フラダンス レインボーB 書神会 E Dance school	21 水美会 ポーセラーツ 空手	22 どんぐり オカリナ小組 紙バンド レインボーA エストレージャ よさこい	23 健康体操 ピンポン 彩の会 フラダンス	24 ポーセラーツ	25
26 楠木クラブ すみれ ピンポン べっぴんさん E Dance school fun	27 若葉会 詩吟 フラダンス レインボーB 書神会 E Dance school	28 水美会 楠木クラブ オカリナクラブ 空手	29 3B体操 どんぐり レインボーA エストレージャ よさこい	30 健康体操 ピンポン フラダンス	31 マクラメ教室	瀬戸会館 HP  赤色:午前 青色:午後 黒色:夜間



瀬戸会館では、人権、健康、福祉、生活の各種相談を行っています。
お気軽にご相談ください。

今年度の大掃除は、12月6日（日）9時から10時30分を予定しています。

